



学校通信

平成29年度 第11号
平成30年 3月 1日
練馬区立開進第三小学校
校長 土屋 信行

らん じゃ しつ 蘭 麿 の 室

校長 土屋 信行

「らん じゃ しつ の 室 に 入 る 者 は おのずか 自ら 香 ば し」

この言葉は、よい香りのする部屋に入る者は、自然により香りが身に付くという意味から、よい環境にいてよい友人と交われば、自然に感化されて自分の身も正しくなるということを表しています。この意味だけを捉えれば、よい環境に入れさえすれば、放っておいても人はよくなる。よい学校、よい会社と言われるところに入れさえすればいい。そんな風に受け止められる恐れがありますが、この言葉の本当の意味、奥深い所は、そんなに単純ではないと私は考えています。

「蘭麿の室」の蘭麿とは、よい香りを出すお香かぐのことです。では、このお香を物として捉えるのではなく、今の私たちの日々の暮らしの中にある、目に見えないものに例えたとしたら何に当たるのでしょうか。私は、ある場所に一緒にいる人たちの優しさや良心、よりよくなろうと我慢や努力をする気持ち等が醸し出す雰囲気、風土、伝統のようなものではないかと思っています。

常に他者を頼り、何も努力しない者が複数集まっても、そこが「蘭麿の室」になることはありません。自分を、互いを高めようと努力する気持ちが蘭麿になるのだと考えます。蘭麿の香りは与えてもらうものではなく、自分たち自らが創り上げるものなのではないでしょうか。

今の本校には、全校のお手本となる立派な6年生、そしてそれを見習い素晴らしい活躍を見せてくれている5年生がいます。4年生以下の子供たちがよい影響を受けない訳がありません。そして、その子供たちに寄り添い、指導力・授業力を高めるべく精進している教師と、その教師を支え、力を与えてくださっている保護者の皆様、常に本校を愛し見守ってくださっている地域の皆様がいらっしゃいます。まさしく、皆で開三小を「蘭麿の室」にしようと努力してくださっていると私は感じています。

開校から85年、約16000人に及ぶ本校の卒業生は、世界で、様々な分野で活躍し、社会に大きく貢献しています。皆の努力によって、これからも胸を張って誇れる「蘭麿の室」として、開三小は在り続けたい、在り続けてほしいと願っています。

最後になりますが、今年度の皆様の本校に対する深いご理解とご協力に心より感謝申し上げます。本当に有り難うございました。

